

■日時：平成29年10月18日（水） 9：30～11：15

■場所：篠山市民センター 研修室5

■出席者：篠山再生計画推進委員会委員（出席7名、欠席2名）

政策部長、総務部長

庁内担当職員（行政経営課、管財契約課）

■傍聴者：1名（記者1名）

■会議次第

1 開会

2 あいさつ

3 報告事項

篠山市公共施設等総合管理計画（概要）について（総務部より）

4 協議事項

（1）篠山再生計画進捗状況等の報告について

（2）篠山再生計画進捗状況等の意見集約について

5 その他

6 閉会

■ 会議要旨

1 開会

（関係職員M） （開会の宣言、欠席委員について報告、事前配付資料の確認）
次第1開会として、まずは委員長より挨拶をお願いします。

2 あいさつ

（委員長） （開会あいさつ）

3 報告事項（篠山市公共施設等総合管理計画（概要）について（総務部より））

（委員長） 会議次第3. 報告事項に入る。昨年度の委員会でも話題となった公共施設等の老朽化対策が今後問題になる。本年3月策定の篠山市公共施設等総合管理計画について総務部から報告願う。

（総務部長） あいさつ

（関係職員P） （報告資料と資料2（平成28年度の委員会からの意見・提案に対する取組結果について報告：管財契約課分）に基づき説明）

（委員長） 質問があれば、あとにも協議を控えているため少しお受けする。
（質問なし）質問がないようなので次へ移る。

4 協議事項（1）篠山再生計画進捗状況等の報告について

（委員長） 会議次第4. 協議事項に入る。今回の委員会開催趣旨及び協議の進め方について、事務局から説明願う。

(関係職員K) (事務局から説明)

(委員長) 質問があればお受けする。(質問なし) それでは、(1) 篠山再生計画進捗状況等の報告について、事務局より説明願う。

(事務局より、資料1に基づき進捗状況の概要および収支見通しについて報告、その後、資料2に基づき平成28年度の委員会からの意見・提案に対する取組結果について報告(管財契約課以外))

4 協議事項 (2) 篠山再生計画進捗状況等の審議および意見集約について

(委員長) 篠山市公共施設等総合管理計画、篠山再生計画進捗状況の概要、平成28年度決算状況、収支見通し、平成28年度の委員会からの意見・提案に対する取組結果について説明をいただいた。平成28年度の委員会からの意見・提案に対する取組結果については、特に上5項目については、単年度で終わるものではなく、これから5年、10年と注意し見ていく内容であり、人口、財政、公共施設等総合管理計画の観点から必要となる。説明を踏まえ、委員の皆さまから質問や意見をいただきたい。まず、質問があれば頂戴したい。

(委員Y) 収支バランスが平成31年度に見込めるようになり、昨年度に平成31年度から新しい計画を作成してはどうかと提案をしたが、様子を見て収支が見込める平成31年度から新しい計画を考えると事務局からの説明、理解した。そこで、意見だが出口が見えて、健全化に向かっているからこそ、襟を正す時期ということ。その理由だが、今後一般財源ベースで市の財政を圧迫していくであろう数字が、扶助費、物件費、補助費及び繰出金などに出ており、また、収支バランスがとれる時期が近づいてきたといえども、全国的に見ると、実質公債費比率や将来負担比率は非常に厳しい状況であることは変わっていない。さらに、決算から見ると、普通建設事業費が平成28年度約21億円で、だんだんとこのような更新ができるようになったという力を示しており、これが篠山市の実力ベースの数字と考えると、公共施設等総合管理計画(P53~54)の、年度別更新費用で、2031年度までは年間14から15億円が、2032年度くらいから状況が変わりはじめ、更新に係る費用だけで金額が膨らみ、新規は難しい状況になる。さらに2050年頃には、実力ベースの6倍ほどの額が更新で必要になる。そのため、支出がいつときにならないよう、将来に向けて、前倒しで工事を行う等が必要である。難しいことだが30年後を見越して行う必要がある。また、貯金を前倒しでしていく。やっとな平成31年度に収支バランスが見込めるようになった今、公共施設等の老朽化問題もあり、平成29年度決算が重視される。全国的に人口減少、税収減となる。その中でやっっていくには、今襟を正した平成30年度予算編成が大切となってくる。

(委員長) 他に意見はないか。

(委員U) Y委員に確認したい。下水道整備を前倒しで実施する必要があるということか。

(委員Y) 支出の時期がいつときに集中するため、計画的に前倒しでできるところは工事を進め、支出の山場をなだらかにするという意味である。また、将来に備えて貯金をしておく必要があるということである。下水道設備は50年が耐用年数

だが腐食を考えて、約25年のスパンで考えていく必要がある。

(委員長) 平成28年度の意見提案、結果を踏まえての観点からでもかまわない。意見はあるか。

(委員W) 日本はこれから人口減、税収減となり、篠山も同様である。子どもたちに負債を残さないよう、計画的な貯金が必要であると思う。

(委員V) 平成31年度に収支バランスがとれる見込みになり、順調に健全化へ向け進んでいてよかったと思う。ただ、その先にまだ大変な時期が来るという具体的なイメージを今日の会で知った。ここまで来たからこそ、さらに来るであろう大変な時期に備えた計画の策定が必要なんだと思った。

(委員T) 篠山市に都会からの転入を募り、実際転入されている方もいるが、篠山市から転出し都会へ出られる方もいる。地元の人が減っていることを懸念している。また、公共施設について何年後に検討などと言われているが、今後、公共施設の維持等、お金が必要になる。どうするのかと思っている。

(委員X) Y委員の話聞いて現在の状況や今後のことも分かった。税金の未収金を減らし、人件費も削減して節約してきた。やっと収支バランスが見込める時期になってきたが、これからも公共施設等整備にお金が必要。だが、何か1つ足りない。何かプラスアルファがないと難しいのではないかな。全国どこも同じ状況で過疎や人口減少が進む。そこに篠山市は、例えば、観光など篠山市が特色とするもので、篠山市が利益を上げる。投資すべきことには投資し、「もうけるまちづくり」が必要でないか。

(委員Y) 篠山再生計画には当初、行財政改革編とまちづくり編があり、行財政改革を中心に発言し、まちづくりについては申し上げていなかったが、おっしゃるとおりだと思う。まちづくり(産業振興、子育て)を平行して行う必要がある。これからの社会を考える時、それを行うために、今後、人口減、税収減、公共施設等総合管理計画にもあるように、人口減少等で役目を終えた公共施設の廃止等を行い、メリハリ、選択集中が必要となる。

(委員長) 篠山市の人口は減っているというが、人口流出と流入は同じぐらいであり、人口減の理由は自然減である。まだ、他市に比べると減少が抑えられている方ではあるが、やはり減少はしている。ただ、世帯数だけは増えてきている現状。X委員からまちづくり、地方創生の時代、お金をもうけないことにはというご意見もいただいた。大切なことだと思う。まちづくりといえば、ボランティアで行っていただいているイメージがあるが、農産物等、市民が一体となってもうけるまちづくりをしなければならない。他に意見はないか。(なし)それぞれいただいた意見から事務局として何か意見はないか。

(関係職員K) 今いただいたご意見で委員長がよければ委員会の意見としていただき、まとめ方については、また委員長とご相談させていただきたい。また、昨年度の委員会からの意見提案についても、委員長の言われたように単年度で終わるものだけではないので、また、委員長と相談させていただく。

(委員長) 他に意見はあるか。(なし)もしあればまた言ってください。

(委員長) 平成28年度の意見提案の項目について、継続で考えていただかないといけない。財政健全化についてはY委員から収支バランスが見込めるようになったが、将来負担比率や実質公債費比率は依然悪く、今こそ襟を正して、公共施設等の老朽化対策に向けて、10年、20年を見据えた計画が必要であることや公共施設の更新時期が将来、いつときに到来し、実力以上の更新をしなければならなくなるため、ゆるやかな更新、貯蓄が必要と意見をいただいた。また、X委員からは、稼ぐ、売るまちづくりの必要性、前向きな投資の必要性についてご意見いただいた。このあたりを中心に意見提案をまとめたい。また、まとめ方は私と事務局とでまとめ、その後、委員のみなさまにご確認いただき委員会として意見を提出したい。

(関係職員M) 慎重なご審議に感謝する。今後のスケジュールについて、委員長からも説明のとおり、皆様からいただいたご意見の取りまとめを行い委員長から市長に意見提案書として提出いただく。日程は未定だが、もし日程があえば、委員長とともに意見提案書提出時に同席いただけたらと思う。あわせてホームページで市民の皆様にお知らせする。

6 その他 (事務局) 特になし

7 閉会 <委員長あいさつ>

(委員長) (閉会あいさつ)

—以上—